

科 目 名

漢方概論

Introduction to Oriental medicine (Kampo)

3年 後期 1単位 必修

村 上 光太郎

概 要

生薬の行き着くところは応用生薬学であり、その中に漢方がある。東洋医学と漢方の関係、漢方の歴史や考え方、生薬から漢方への変化を解説するとともに、各薬方の成り立ちやその応用についても詳細に解説する。

一般目標

現代医療で使用される生薬・漢方薬について理解するために、漢方医学の考え方、代表的な漢方処方への適用及び薬効評価法について基本的知識と技能を修得する。

授業計画

1. 漢方医学の種類
2. 本草と漢方の歴史
3. 漢方の基本的概念
4. 生薬の配剤から見た漢方 生薬編
 - A. 桂枝、麻黄、桔梗、半夏
 - B. 茯苓、附子
 - C. 柴胡、甘草、芍薬
5. 生薬の配剤から見た漢方 漢方編 1
 - A. 柴胡剤、順気剤
 - B. 駆瘀血剤、表証剤、麻黄剤
 - C. 建中湯類、裏証 1・2
6. 生薬の配剤から見た漢方 漢方編 2
 - D. 瀉心湯類、駆水剤
 - E. 解毒剤、白虎湯類、その他
7. 随證療法

薬学教育カリキュラムおよび到達目標

C7 自然が生み出す薬物

(3) 現代医療の中の生薬・漢方薬

【漢方医学の基礎】

- 1) 漢方医学の特徴について概説できる。
- 2) 漢方薬と民間薬、代替医療との相違について説明できる。
- 3) 漢方薬と西洋薬の基本的な利用法の違いを概説できる。
- 4) 漢方処方と「証」との関係について概説できる。
- 5) 代表的な漢方処方の適応症と配合生薬を説明できる。
- 6) 漢方処方に配合されている代表的な生薬を例示し、その有効成分を説明できる。

【漢方処方の応用】

- 1) 代表的な疾患に用いられる生薬及び漢方処方の応用、使用上の注意について概説できる。
- 2) 漢方薬の代表的な副作用や注意事項を説明できる。

授業方法

通常の講義形態をとるが、適宜、プリントを配付し補足する。

評価方法

定期試験で評価する。

教 材

北川 勲 他著「生薬学」第7版（廣川書店）

東 丈夫、村上光太郎 著「漢方薬の実際知識 増補版」（東洋経済新報社）